

2. 教育・環境委員会の取り組み

(1) 研究の基本方針

① **研究テーマ** 平成20年度 設定
「大人が頑張る」「PTAががんばる」
そして、「子どもが変わった」
～大人の果たす役割と具体的な行動を通して～

② **活動スローガン** 平成24年度 設定
子どもの笑顔と家族の笑顔
笑顔は家族のエネルギー
～先輩親に教えられながら、子どもたちに負けない親の底力の発揮～

(2) 研究内容 平成26～28年度（3年計画）

3つの柱と具体的な取組

(柱1) 子どもの生活リズム向上をめざす活動のあり方

- ①「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進
(体づくりから心づくりへ)
- ②家庭・学校それぞれでつくる生活リズムの推進
(反省から改善へ、生活習慣から学習習慣へ)
- ③家庭・地域・学校を明るくする「笑顔で元気なあいさつ」の推進

(柱2) 豊かな心を育てる教育活動のあり方

- ①心につながる・つなげる教育活動(自然体験、社会体験など)の推進
- ②家庭で必要な「心を育てる教育活動」(家族という単位を核にしたとりくみ)の推進
- ③学校や地域で必要な「心を育てる教育活動」(個と集団という考えを核にした取り組み)の推進

(柱3) 教育環境浄化と情報化社会から子どもを守る活動のあり方

- ①安心安全な地域をつくる取組と、子どもを守り育てるための研修の充実
- ②子どもに身につけさせなければならない力の明確化と、子どもへの働きかけ

(3) 経過

これまで、3か年ごとの研究計画を立て研究を推

進してきた。毎年、委員構成が大きく変わる中、継続して研究を進め、『親子でやるぞ！習慣がばんばりシート』の取組や『豊かな心を育てる体験活動』に関する先進事例の報告、提言発表を行うなど、確実に研究成果を残し、家庭や地域づくりを実践する全道のPTA活動を後押ししてきた。

(4) 今年度の研究の進め方と具体的な活動

今年度は、10月に開催された第63回日本PTA北海道ブロック研究大会十勝・帯広大会にて、先進的な事例として、三笠小学校PTAが提言発表を行った。また、分科会の事例発表の前と全体会において、本委員会の活動概要の説明も行った。

3回の委員会では、平成26年度に実施した「学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいる活動」の全道アンケートの結果を基盤に、今年度の研究の重点項目を「情報化社会から子どもを守る活動」と定め、平成30年度の全道研究大会での提言発表を目指して、活動を進めた。

12月には、全道の単Pを対象にしたアンケート調査を実施し、次年度以降の研究推進にあたり、特色あるPTA活動の集約を行った。

(5) 成果

平成26年度に始まった3か年研究計画において、3つの研究内容の柱を毎年一つずつ重点課題として取組を進め、大きな成果を残してきた。今年度は、重点項目を柱3「教育環境浄化と情報化社会から子どもを守る活動のあり方」の「情報化社会から子どもを守る活動」とし、活動を進めてきた。各地区の委員を通して、全道に発信すべき先進的な事例を収集することができた。

(柱1) 子どもの生活リズム向上をめざす活動のあり方

各地区研究大会で「生活リズムチェックシート」(道教委ホームページで公開中)の活用事例が取り上げられるなど、単Pを中心に取組が進められている。

(柱2) 豊かな心を育てる教育活動のあり方

十勝・帯広大会第4分科会にて、昨年度集約した事例のうち、先進的な実践事例として三笠市立三笠小学校PTAの「学校田の活動について(コミュニティ・スクール

による学校や地域との連携について)」を報告した。学校統合による学校へのかかわりの希薄化が懸念されたことから導入されたコミュニティ・スクールの活動により、保護者や地域住民が積極的に学校に関わりを持つようになったこと、子どもたちが自分の暮らす街への愛着がいつそう高まったこと、参加する地域住民やPTAが生き甲斐や充実感を持つことができたことなど、全道に広く情報を発信することができた。

(柱3) 教育環境浄化と情報化社会から子どもを守る活動のあり方

今年度は、研究内容(3)「教育環境浄化と情報化社会から子どもを守る活動のあり方」について重点化して進めることができた。特に、「情報化社会から子どもを守る活動」を取り上げ、抽出した事例についての現在の状況やそれ以外の先進的な活動実践事例を収集した。

この2年間の変化として、活動の主体が学校や単Pから市町村PTA連合会へ、活動内容が情報モラルに関する研修会の開催から情報機器の使用に関するルールづくりへ変わりつつある現状が確認できた。

3回の委員会の中でも有意義な協議が展開された。全道に紹介し、発信したい先進的な実践事例から、資料の一部を研究紀要やホームページにおいて公開、情報提供することができた。

(6)課題

○研究内容(1)「子どもの生活リズム向上をめざす活動のあり方」に関わって、本委員会の研究成果の一つである『生活リズムチェックシート』の取組が学校、家庭に定着しているか、その成果が出ているか等、各地区での取組状況の交流と課題の整理を進める必要がある。

○平成26年度に始まった3か年研究計画が終わり、今年度で一区切りとなるため、今後の研究推進の構想を作り上げる必要がある。そのため、単Pを対象にしたアンケート調査を実施し、特色あるPTA活動の集約を行った。全道

から集まったたくさんの事例を分析し、重点事項の設定等、今後の研究に生かしていかなければならない。

○毎年、常置委員会のメンバーが変わるため、研究推進の継続に課題がある。次年度委員への引継の工夫、電子メールの活用による迅速な情報交換等が必要となる。

(7)次年度研究の方向性

これまでの研究の成果と課題を受け、研究テーマ及び研究内容については、引き続き研究を行う。具体的な取組については、集約された実践事例やこれまで本委員会で話された内容をもとに、平成29年度に検討して決定する。

次年度からは、日本PTA北海道ブロック研究大会での提言発表(組織・連携委員会と隔年実施)を研究発表の場の一つとすることとなった。そのため、アンケート調査内容決定から研究大会での提言発表までを見通した2年間の研究推進計画を設定する必要がある。今回は平成30年度に提言発表を行うことになる。

教育改革が矢継ぎ早に行われ、先を見通すことが非常に難しい時代である。数年先に、知りたい、聞きたいと思うようなテーマ設定(重点事項)を見つけることも困難が予想されるが、平成29年度においては、今年度末に実施した全道単Pアンケート調査の結果分析から、重点項目を設定し、研究協議を推し進めていくことが望ましい。

